

かなめし)Vド

かなめし)Vド

『かなしくてかなしくて』

平塚 直隆

登場人物 大木大介

森田

岩崎

先生

川浜高校 夕方。

水飲み場では、ラグビー部員の大木大介が、夕日に向かって涙を流している。

マネージャーの岩崎は甲斐甲斐しくタオルで涙を拭いてあげている。

部員の森田は頭を下げて、

森田 キャプテン、今日はホントすいませんでした。この負けは僕らの責任です。僕ら二年の練習不足

が原因なのは明らかです。もっと走りこまないといけないと思いましたが。だからキャプテン、そんな泣かないでください。逆に僕らを叱ってください。殴ってくれてもいい。ホントすいませんでした！

大木 森田…

森田 はい。

大木 俺はそんな事で泣いているんじゃない。

森田 え？

大木 悪いが試合に勝った負けたなんて俺にはちっぽけな事だ。俺は今、全世界の人々の悲しみをこの身にかけて泣いているんだ。

森田 ……ん？

大木 貧富の差、人種差別、なくならない戦争やテロ、この世界に傷つき、倒れ、絶望する人達、そういつたすべての人々の悲しみを感じているんだ。

大木、泣いている。

森田 ……岩崎。

岩崎 はい。

森田 俺ちよつと先生呼んでくる。

岩崎 はい…。

森田、去る。

岩崎 大木さんの言ってることすつこいわかるわ。世界の人々の事を想像したらたまらなく悲しくなっ

てしまったのよね？そうやって比べる事で、あなたの悲しみの尺度を測りたかったのよね？

大木 岩崎…

岩崎 なに？

大木 ちよつと独りにしてくれないか。

岩崎 ……わかるわ。

大木 ……

大木の目からさらに多くの涙が流れる。

岩崎、タオルで拭くがそれではもう間に合わないくらいの水量。

岩崎 そう、世界は悲しみに溢れているのね。

森田、顧問である先生を連れてやってきた。

森田 頭でも打ったんじゃないかと…。

先生 大介、何を泣いてるんだ。もうみんなグラランドに居るんだぞ。お前ただ、悔し涙に暮れているのは。みんなはもうすでに明日を見据えて動き始めている。ぐつと涙を堪えて走ってる。その涙を、明日への原動力にしてるんだ。泣いている暇があるならグラランドに來い。涙なんか汗と一緒に流しちゃ

え。

大木 先生、僕は今、全世界の人々の悲しみをこの身に受けて泣いているのです。貧富の差、人種差別、なくならない戦争やテロ、この世界に傷つき、倒れ、絶望する人達、そういつたすべての人々の悲し

みを感じているのです。

森田 ……この通りなんです。

先生 いいか大介、今日の敗戦はただの敗戦じゃない。お前たちが立ち上がる為の大きな敗戦だ。確かにお前たちは一〇九対ゼロなんていう歴史的な大敗をした。だけどお前たちはずつとゼロじゃないはずだ。しかしこのまま何もしないで泣いても何も変わらない。グラランドに來い。ここで泣いててもずつとゼロのまま。動き出せば必ず一になる。グラランドに來い。いいな。

大木 ……

先生 なんだお前は？悔し涙なんか百年早いんだよ。

大木 ですから僕は悔しくて泣いてる訳じゃないんです。

先生 一〇九対ゼロで負けて、何が「悔しいです」だ。相手に対して失礼だとは思わんか。まずは死にもの狂いで練習して、全力で当たってそれで負けたらその時初めて悔しがれ。今はまだ泣いてる時じゃない。行くぞ。

大木 ……

岩崎はタオルを絞って大木の涙をふいてやる。

先生 大介、お前はキャプテンだろう？お前がそんな事でどうする？皆がお前を心配してる。お前が先頭切って走って見せてやるんだ。いつもの負けん気はどうした？川浜一のワルと呼ばれたお前の牙はもう折れちまったのか？

大木、泣いている。

先生 お前このままじゃ脱水症状起すぞ。みつともないつたらありやしない。男は涙を見せぬ者、見せぬ者、いいか大介、泣きたいのは先生だって同じだ。悔しくて悔しくて大声上げて泣きたいんだ本当は。

岩崎、大木の涙を拭いてやる。

先生 お前もそれやめろ。

岩崎 ……え？！

先生 お前がそうやってやるもんだからこいつも調子に乗って泣くんじゃないか。子供じゃないんだぞ。

岩崎 ……え？

先生 良く居るんだこういう世話好きの女子が。こういう時にこゝぞとばかりに女らしさをアピールしやがって。こういう女に限って家に帰ったらだらしがないんだよ。お前どうせ部屋散らかってるだろう。カーペットなんか毛だらけだろう？だいたい男子部のマネージャーなんてやってる女に碌な女はいないんだ。男は弱ってる時に優しくされたら多少不細工な女だって天使に見えちゃう。その辺の事をちゃんとわかってやってる狡猾な女なんだお前は。

岩崎 ひどい…

岩崎も泣く。

先生 お前も泣いてる暇があったらレモンのはちみつ漬けでも持ってきやがれってんだバカ。

森田 先生。

先生 なんだ、お前も文句あるのか？

森田 キャプテンは、試合に負けて悔しくて泣いてるんじゃないんですよ。

先生 なに？

大木 もういいさ、どうせ誰も分かつちゃくれない。

森田 僕思いついたんですけど、そういえば先日おじいちゃんが亡くなったって聞きました。

先生 おじいちゃん？

大木 ……？

森田 だからおそろく今日はおじいちゃんのお葬式だったんでしよう、キャプテンは葬式にも出ずに試合に出たんです。

大木 ……？

先生 お前、悔し涙じゃなかったのか？

大木 僕のおじいちゃんは高齢ですけどピンピンしてますよ。

先生 お前はすつと、おじいちゃんの事を気に留めながら試合していたのか？

大木 ピンピンしてますよ。

森田 すいません、もっと早く思い出せば良かったんですけど。

大木 あ、ね。

先生 だから負けたんだ！お前がそんな風だから一〇九対ゼロなんて見たこともない点差で負けたんだ。お前のせいだからな。みんなに謝れ！

森田 先生！

先生 ラグビーはな、ワンフオーオール、オールフオーワンの精神だ。お前はグラウンドで、皆の事ではなくおじいちゃんの事を考えていた。おじいちゃんはそのお前を見て、喜ぶと思うか？お前たちがぼろ糞に負ける試合を、自分のせいで負けて、おじいちゃん喜ぶとも思ったか、ええ？…てっきり俺は悔し涙で泣いてるのかと思っただろ？小学生かお前は。おじいちゃんつてのはいたい高校生くらいに死ぬのが普通なんだよ。なんにも珍しい事でもないし、みんな同じような経験してるんだ。それなのにお前と来たらメソメソメソメソいつまでも、ちつとは悔し涙で泣きやがれ。相手に対して

失礼だ。

岩崎 ひどい…。

岩崎、泣く。

森田 キャプテンは幼い頃に両親と死に別れ、以来ずっと祖父の元で暮らしてきたんです。キャプテンにとっておじいちゃんは、父親同然の人だったんです。

先生 だあかあら、そこでメソメソしながら試合に出られたらこっちはたまったもんじゃないって話だよ。そこまで大切なおじいちゃんだったらなせおじいちゃんの為に頑張らない？試合に勝ってこそ葬式に行けなかったおじいちゃんへのはなむけじゃないのか？え？

大木 (さらに大きく泣いて) こいつは思い切り誰かと勘違いしている…。

森田 キャプテンだって一生懸命勝とうと思ってるんですけど、でも勝てなかったんです。それくらい強かったんです相模第一は。

先生 だから練習しろって言うてるんだろがよ俺は！

岩崎 違ってます。大木さん本当はそんな事で泣いてるんじゃないんです。

大木 もういいよ岩崎、どうせ俺の事なんて誰も分からない。

岩崎 大木さんは、私のせいで泣いてるんです。

森田 なんだって？！

大木 ？！

岩崎 この前私、大木さんに告白されたんです。

森田 え？！

大木 はあ？！

岩崎 それを私、断ってしまったから。

大木 俺がいつ告白したんだ…。

森田 それはおかしい、だってキャプテンには彼女が居るんだ。俺と同じクラスの子で皆公認の仲間なんだ、ありえないよ。

岩崎 じゃあもう別れたんじゃない？私が告白されたのは事実なもの。

森田 なんて告白されたんだよ？

岩崎 ユニバーサルスタジオジャパンのお土産買ったの。変なクッキー。「みんなには内緒だぜ」って私にだけくれたのよ。

森田 …俺もそれ買ったけど、そのどろろが告白になるんだよ？

岩崎 みんなには内緒って事は本当は私とユニバーサルスタジオジャパン行きたかったけど、でもまだ二人は高校生だからちゃんと卒業したら行こうねって意味じゃないのバカ。

森田 …え？

大木、泣くしかない。

岩崎 だって仕方ないでしょう？学校休んでユニバーサルスタジオジャパンになんて行ける訳ないじゃない、いくら平日が空いてるからってそれは無理よ。不良の始まりだよ。

森田 岩崎、キャプテンはな、そのユニバ、彼女と一緒に行ったんだよ。

岩崎 そんなの嘘よ、騙されないわ。だってそれはユニバ、私が誘われたのはユニバーサルスタジオジャパンのもの。

森田 一緒だよ。

岩崎 知ってるわよ！

森田 岩崎…、お前大丈夫か？どうかしてるぞ。

岩崎 じゃあどうして私がタオルを渡すといつも「ありがとう」って言うてくれるの？

森田 わかった、ごめん、俺らがお前に何にも言わないのが悪いんだな、ごめん。

岩崎 練習終わりだって、大木さんだけは私に「今日もありがとう、お疲れ様」って言うてくれる。

森田 だからさ、それは俺達がお前に対してお礼のひとつも言えてないから、代わりに言うてくれるんだと思うよ。

岩崎 洗濯籠を二つ持って走ってたら「重いだろう？」って一つ持ってくれる！大木さんだけよそんな事してくれるのは！

森田 ちゃんと皆にも言っとく、もっとマネージャーに優しく接するよつに。

岩崎 違う違うそうじゃないわ、大木さんが、私の事を好きだからそうしてるのよ、ね、そうよね大木さん？そうだと行って。

岩崎、泣いている大木の身体を激しく揺さぶる。

森田 もうやめろよ迷惑だから。

岩崎 え、なに？どろろが迷惑なの？

森田 お前がそうやってしつこいからキャプテンは泣いてるんじゃないのか？

大木 違うけど、迷惑なのは違う。

岩崎 …なによそれ、私はマネージャーなのよ！選手のケアをするのがマネージャーの仕事じゃない！

森田 だからそれは有難いとは思ってるよ…

岩崎 じゃあどうしてみんなは大木さんのように優しい言葉をかけてくれないの？

先生 お前がブスだからに決まってるんだろ！

森田 先生！

先生 ブスは何やったってブスなんだからしょうがねえたる無視されたって！

森田 先生ちよつと黙って…

先生 お前どのツラ下げて言ってるんだこのブス、このブス！誰が好き好んでブスと会話したいんだよ、

ブスに生まれちゃったもんはいつまでもブスなんだから諦めるこのどブス！

森田 先生！

森田 先生を突き飛ばした。

先生 ぼ、暴力振るつたな、校内暴力は部活動停止だぞ、わかってんのか森田。

森田 先生、いい加減にしてください。

岩崎 (号泣して) 違うわよね大木さん？そんな立場上の付き合いじゃないわよね私達、ねえ、大木さ

ん、違つて言つて！どうしてあなたは泣いてばかりなの？

先生 お前がブスだからに決まってるんだろ！

森田 先生はもう座ってください。

先生 なんだと…

森田 岩崎もそんなヒステリックになるのやめろ、泣いてるんだぞキャプテン。

岩崎 どうして？どうして何も言ってくれないのよ…

森田 何も言わないって事が答えなんだよ、わかってくれよ。

岩崎 じゃあどうして泣いてるのよ…

大木 わかった、もう一度言つ。俺は今、全世界の

先生 もうヤメだヤメだ！お前らがそうやって心配するから泣くんだよ！こいつは！子どもなんかみんな

そつだろ？こいつは凶体だけが大きいただのクソガキなんだよ。

森田 先生。

先生 うるせえ、お前らに俺の何がわかる！校長先生にラグビー部の再建を依頼されて半年、また一度

も勝つた事ないじゃないかよ。このままじゃ年度末には俺クビだぞ？どうしてくれるんだ、え？家に

はまだ二歳になる娘が居るんだよ。俺が職失つたら誰が面倒みてくれるんだ。お前らがちゃんとやっ

てくれねえとウチの家庭も崩壊するんだよ！これで離婚にでもなつたら全部お前らのせいだから

な！

岩崎 ひどい…

先生 さつきからお前おんなじ事しか言わねえなこのブス！ブス！どブス！

森田 先生もうやめてください！そんな先生、夢でも見たくない…

先生 俺だつてこれが夢であつてほしいよお！！！！！！

先生、崩れ落ちる。

森田 …先生は、疲れているんですよ。疲れていると人は、涙もろくなる。

先生 お前いつからそんなに偉くなった？まだ二年のくせしやがって…

森田 僕の親父も酔つ払つと最近すぐ泣きますから、今の先生見てると親父を見ているみたいです。

森田、岩崎からタオルを受け取り先生に涙を拭くように促す。

が、先生はタオルを森田に投げつけ、

先生 お前んとこの親父なんか今にも潰れそうな中華屋だろ？あんな中華だか台湾だかわかんねえよう

な店出してるようじゃそりやあお先真つ暗だろうよ！

森田 なんて事を言うんだあなたは…

先生 俺なんかお前、ラグビーの日本代表にまで選ばれた男だぞ？それがなんでお前らみたいなバカで

どうしようもないガキどもの面倒見なきゃならねえんだ、やつてられるか！

岩崎 先生、もうやめて、今の先生はあまりにも哀れだわ。

先生 なんだとこのアマ…！

岩崎 子供なのは先生の方じゃないの！

先生 うるせえお前は喋んじゃねえ、ブス菌が蔓延するだろお！

岩崎 ひ(どい)…

先生 ブース、ブース、ブース！

森田 この先生、最低だ…

先生 ちくしょー！大介、全部おまえのせいだからな！

岩崎と先生は泣き崩れ

森田はうなだれ、どうにもできないでいる。

森田 ……そうですよキャプテン、本当の事を言ってください。あなたは どうしてそんなに泣いてるんですから彼女と喧嘩でもしたんですか？

大木 何度も言いますが、俺は今、

自転車のベル「チリンチリン」が離れたところから聞こえる。

森田 あ、彼女さん迎えに来ましたよ。やつぱり喧嘩しやなかったんだ。じゃあなんなんだ？誰かが死んだでもなく、失恋でもなく、病気ですか？どこか痛いんですか？人が泣いてるのを見てそれくらいしか思いつかないんだから僕はまたまた子供だ。

♪かなしくてやりきれない

森田 彼女が近づいてくる。キャプテンがこんなに泣いてるのを見ると、きつと彼女も泣きたらうなあ。泣いてるキャプテンを見ると皆泣く。おかげで地面がびしょびしよだ。

先生、立ち上がり、

先生 人は、なぜ泣くのでしょうか？悲しい時？悔しい時？

森田 先生…？

岩崎も立ち上がり、

岩崎 寂しい時、辛い時、

森田 岩崎…？

先生 嬉しい時、感動した時にも泣くでしょう。

岩崎 そのどれにも当てはまらない、泣いている本人だって分からない、ただただ涙が零れ落ちる事だつてあるわよね先生。

先生 そう！それが人間です。それが！生きてるって、事なんです！

先生と岩崎、泣きながら歌い踊るので水飛沫が舞い上がる。

大木 俺は独り、世界を嘆く事も出来ないでいる…。

大木、ドボドボと涙を流す。

森田 ああ、キャプテンの彼女がやってくる、笑いながら手を振って。でもここまで来たら彼女は泣いてしまう。恋人同士は泣き続け、その隣ではバカが二人踊ってる。僕ももう、泣いてしまえうさだ。

森田、空を見上げる。

森田 ほら、空まで泣き出した。

雨が降って来た。

先生と岩崎は踊り続ける。

大木は泣き止まない。

〜終〜

この戯曲の著作権は、作者である平塚直隆にのみ帰属するものです。
上演許可あるいはその他のお問い合わせは、作者の所属する「オイスターズ」へどうぞ。

■ オイスターズ ■

ホームページ

<https://oysters.official.jp>

メールアドレス

theatrical_unit_oysters@yahoo.co.jp